

# スイスの飢えない戦略

Jアラート（全国瞬時警報システム）に対する議論が起きている。Jアラートは国民を不安に陥れるだけで、政府は国民の生命を守ろうとしているのかという議論。頭上を北朝鮮のミサイルが飛ぶ危機への対処も分らない時に突然、衆議院が解散した。大義名分が無いだけでなく、国家財政にアラートが鳴っているのに、消費税の使い方の変更が争点だという。欧米は財政政策を転換し始めたのに日銀は金融緩和を続け、アラートは鳴り続ける。日本の食糧自給率は2年続けて40%を切った。この数字は深刻なアラートだが国民は食糧自給率の低下に危機感がない。ミサイルが自身に迫る危機なのに対し、食糧自給率の危機には国民的共通認識が欠如しているからである。

今年ルターの宗教改革から500年。プロテスタントの多いアメリカの白人労働者は、労働は「ベルーフ（天職）」で、労働により最後の審判で天国に行けると考える。この考えはカルヴァンによって補強され、その禁欲的労働が資本主義を生んだとされる。ルヴァンが宗教改革を行った

## 農業と国土

NPO 生物多様性  
農業支援センター  
理事長 原 耕造



革命した見出しに市  
スウェーデンと中立を  
守ったが、ドイツ軍による  
境封鎖で食料輸入がストップ  
し食料難に陥った。その経験  
から法律で食料備蓄を義務付  
け、国民が飢えない戦略を策  
定した。当初は国防上の理由  
だったが、現在は経済政策の  
領域まで政策対象を拡大して  
いる。食料の供給危機をもた  
らす要因が、軍事的脅威から  
自然災害、事故、伝染病、テ  
ロリズム、資源供給国の紛争、  
薬品で19円程度などだ。日本

スイスが、食糧安全保障を  
憲法に明記する国民投票を  
行った。スイスの食料安全保  
障を再確認したい。

スイスの国土面積は九州程  
度の400万畝、永  
年草地を含む農耕地  
は100万畝、放牧  
地は山岳森林地帯に  
100万畝で残りは  
森林。人口750万  
人で食料自給率は約  
50%。数字の意味を  
読み取るには、裏側  
の歴史と実態を知っ  
てこそ理解できる。

## 農家に国防費

スイスは第1時世界大戦で  
スウェーデンとともに中立を  
守ったが、ドイツ軍による国  
境封鎖で食料輸入がストップ  
し食料難に陥った。その経験  
から法律で食料備蓄を義務付  
け、国民が飢えない戦略を策  
定した。当初は国防上の理由  
だったが、現在は経済政策の  
領域まで政策対象を拡大して  
いる。食料の供給危機をもた  
らす要因が、軍事的脅威から  
自然災害、事故、伝染病、テ  
ロリズム、資源供給国の紛争、  
薬品で19円程度などだ。日本

気候変動、資源枯渇等へ移り  
つつあるからである。  
飢えない戦略には基本原則  
が八つある。特徴的な項目で  
は、非常時は国民の最小食品  
要求量を2300キログラム（平時  
3300キログラム）に制限し6カ  
月間確保。4カ月の義務的責  
任在庫という制度があり、国  
と民間企業の契約で担保され  
る。責任在庫機構は民間の自  
主的組織で、費用は販売価格  
に上乗せ国民が負担する。

負担額は1人当たり158  
0円程度。食料で539円、  
エネルギーで1006円、医  
薬品で19円程度などだ。日本

の備蓄の概算在庫費用は15  
8億円で1億2000万人の  
負担額は食料131円程度。  
他の特徴では、非常時の作  
付けが飼料穀物から熱効率の  
良い耕種作物中心に生産物の  
転換などを法律で定めている  
こと。ぜいたく品の生産や加  
工を停止し、生命のために特  
に重要な物資の生産に原料を  
使用するよう指示する。食料  
備蓄は製品在庫だけでなく、  
農地での備蓄が可能なのだ。

スイスは1980年代から  
農家への直接支払い政策を展  
開。国民の命を守る目的で発  
想され、国防の基本である飢

スイスは徴兵制度を採用し  
国民皆兵が国是。国軍は約4  
000人の職業軍人と約38万  
人の予備役で構成され、20  
30歳の男性に兵役義務があり  
女性も任意。男性の多くは予  
備役で、各家庭に自動小銃が  
貸与され、予備役の定年まで  
各自で保管する。

スイスは1648年のヴェ  
ストファーレン条約で神聖  
ローマ帝国から独立、ナポレ  
オン以降の欧州体制を決めた  
1815年のウィーン会議で  
国家の「永世中立」が認めら  
れた。スイスはなぜ永世中立  
国になったのだろうか。

スイスは国土の状態から食  
料が十分に自給できず、お金  
を稼がなければ食べて行けな  
い国。銀行や保険が世界的に  
有名だが、銀行や保険以前の  
稼ぐ方法が「傭兵」という職  
業。傭兵をしなければ食べら  
れない国だったが傭兵は強く  
なければどの国も雇わない。  
スイスの傭兵の強さはロー  
マ時代から有名だ。ローマは

えない政策として、農地を保  
全する農家に「国防費」とし  
て支払われている。

スイスの憲法改正の背景に  
はこうした歴史があり、その  
想定力は多岐に渡る。日本の  
憲法改正論議は防衛問題ほか  
りて、国民の生命を守る食糧  
問題は議論されない。日本は  
農地が次々放棄され、国民の  
命が担保できなくなっている。  
北朝鮮のミサイル、日本の  
安全保障、国家財政の破綻、  
食料自給率低下など、アラ  
ートが鳴り続けているのに、日  
本はそれらの関係性を想定す  
る力が不足している。

ゲルマン民族による領内侵入  
を阻止するため雇った。今も  
ローマのバチカン市国の衛兵  
はスイス人で、バチカンがお  
金を払っている傭兵だ。  
神聖ローマ帝国を舞台に1  
618年から戦われた30年戦  
争当時、まだ国でなく市単位  
のスイス盟約者会議が外国軍  
隊の領内通過禁止を決めた。

安全確保のため1647  
年、スイス国境警備隊を創設  
し、スイス式武装中立がス  
タート。国民皆兵の歴史はこ  
の時に創られた。武装中立後  
も傭兵稼業は続き、フランス  
のルイ14世は傭兵をシステム  
化。以後は他国の戦争で中立  
国のスイス人が両方の軍隊に  
加わって殺し合うことも。ス  
イス人は血を売って食料を買  
うとも言われた。スイスの永  
世中立や国民皆兵、武装中立  
の背景には血の歴史が潜む。